イスラームとグローバルガバナンス研究

■研究概要■

今や世界的課題であるイスラーム世界およびイスラーム教徒との共生の実現を大きな目標に、彼らとの良好な関係作りに資するモデルの構築を目指す。国交60周年を迎え、SFCとの本格的な交流も10周年を迎えるモロッコ各地での学術交流活動、15回目を迎えるアラブ人学生歓迎プログラム（ASP2016）、さらに5周年を迎えるヨルダンでの学術交流活動など海外の大学との共同学術活動の他、日常的な生活場面で共生にかかわる、ハラールについての基礎研究、さらに食品、教育、ジェンダーなどに関する全国のムスリムコミュニティの代表者のミーティングや、ムスリム観光客接遇人材育成のための研修会も実施する。

■実施内容■

1 海外における学術交流

1.1 モロッコ（8月21日～9月3日）

1.1.1 国内5都市6拠点の日本語学習者たちと交流活動を行う。ラバト（ムハンマド5世大学日本語教室）、ムハンマディーヤ（ハサン2世大学日本語教室）、フェズ（ムハンマド・ブン・アブドゥッラー大学日本語教室、桜日本語学校）、アガーディール（LIAL日本語教室）、マラケシュ（カーディー・アイヤード大学日本語教室）。

1.1.2 各地で交流活動を行なった（フェズ、アガーディール、マラケシュでは奥田が講演（アラビヤ語）を行い、大きな平和の構築へ向けた共生関係の構築と日本語・アラビヤ語学習の重要性を説いた）。

1.2 ヨルダン

1.2.1 アンマーンのアリババインターナショナルセンターにて現地日本語学習者たちをチューターに迎え、現地研修のアラビヤ語個人発表プレゼンテーションを作成、発表会を行った。

1.2.2 アンマーンの国際イスラーム思想研究所にて、講演（奥田「日本的価値の形成と教えとしてのイスラームの必要性」（アラビヤ語）9月10日）。

2 SFCにおける学術交流

2.1 モロッコ日本語スピーチコンテスト優勝者滞在

2.1.1 アミーナ・ナイト・ブン・アブドゥッラーさん（昨年のASPの招待学生）が同コンテストで優勝し、副賞で来日。SFCでアラビヤ語学習者たちと交流活動。

2.2 第3回ラマダーン・ナイト

2.2.1 パネルディスカッション「共生関係の構築に向けて」（登壇者：ホスニー先生、ハサン氏、イムティヤーズ氏、コーディネータ：奥田）

2.2.2 アブダビのマクトゥーム財団の支援と、約10社の協賛により、約200名の参加者を得て、イフタールパーティを実施（生協サウス）

2.3 国際イスラーム思想研究所アンマーンオフィス地域ダイレクター、マルカーウィー博士来訪

2.3.1 日本の小学校教育の現状の視察（秋葉台小学校訪問）。日本人の倫理教育に関する意見交換と、博士課程学生に対する研究指導。

2.3.2 講演会「Methodology of Epistemological Integration: An Islamic Perspective.」GESL セミナー、9 月 30 日

2.4 第 15 回アラブ人学生歓迎プログラム（ASP2016）10 月 30 日～11 月 13 日＠SFC

2.4.1 アラブ人日本語学習者 4 名を招き、SFC のアラビヤ語学習者とともに学術交流プログラムを実施。共生関係の構築、大きな平和の実現に向け、日本語レポート作成、日本語スキット撮影を中心に、日本文化体験、アラビヤ語による授業、アラブ料理教室、小旅行などを行なった。15 年ではじめて新聞紙上に日本語レポートの平和の希求という内容が取り上げられ報じられた（神奈川新聞、毎日新聞）

2.4.2 http://nafidha.sfc.keio.ac.jp/webASP/2016/

3 その他の共生関係構築の試み

3.1 ムスリム観光客おもてなしセミナー

3.1.1 28 年度第 1 回ムスリム観光客おもてなしセミナー（横浜）9 月 21 日

3.1.1.1 多業種から計 33 名の参加に加え、毎日新聞と読売新聞の取材あり、記事掲載。

3.1.2 28 年度第 2 回ムスリム観光客おもてなしセミナー（小田原）2017 年 2 月 11 日

3.1.2.1 幅広い業種から 29 名が参加。朝日新聞の取材あり、3 月 8 日に記事掲載予定。

3.2 全国ムスリムミーティング

3.2.1 第 2 回全国ムスリムミーティング（8 月 6 日）SFC

3.2.1.1 日本におけるハラールおよびムスリムコミュニティに関して

3.2.1.1.1 全国からの関係者約 30 名でハラール認証や共生関係の構築等につき議論を行い、共同声明文を発表した。

3.2.1.1.2 https://www.kri.sfc.keio.ac.jp/ja/press_file/20160819_islamlab.pdf

3.2.1.2 第 1 回全国ムスリマミーティング（第 3 回全国ムスリムミーティング）（2 月 11 日）

3.2.1.2.1 ムスリム 2 世の教育について考える：中学・高校時代をいかに過ごすか

3.2.1.2.2 中高生を育てた経験のあるムスリムのお母様 5 名、中高時代を経たムスリム 2 世たち 5 名を中心に約 20 名が集まり、長時間の議論を行い、共同声明をまとめた。

3.2.1.2.3 http://www.kri.sfc.keio.ac.jp/ja/press_file/20170227_islamlab.pdf

3.3 ORF2016 11 月 18 日

3.3.1 セッション企画「アラブ人学生歓迎プログラム（ASP）15 年の軌跡と展望」

3.3.2 セッション企画「ハラールビジネスの最前線から学ぶ ～イスラーム研究・ラボ×空港総合研究所～」

3.3.2.1 ロッテ、榮太郎總本舗、味の素を招き、ハラールビジネスの現状や取組に関するセッション(ORF)を開催し、意見交換と情報発信を行った。

3.3.3 展示企画では、奥田敦研究会および SFC 研究所イスラーム研究・ラボの研究・活動成果を

ポスターにて展示した。

4　基礎研究

4.1　ハラールの概念、ハラール食肉、ハラール認証（についての批判的な考察）については、関係者との情報交換と調査を適宜行った。

4.2　イスラーム教徒が安心して食べられる食の探究史をまとめ、今年度中に成果を公表する予定。

5　応用研究

5.1　ムスリム・フレンドリー・レストランブック・カナガワ（英文）改訂版

5.1.1イスラーム法の実践的な知見を活かし、3月末日完成を目指して現在改訂作業中。初版は、5000部のほぼすべてを配布完了。

5.2　企業との連携

5.2.1横浜ベイシェラトンホテル

5.2.1.1　出張おもてなし講座の実施と、課題抽出。（10月11日・18日）

5.2.2小田急電鉄

5.2.2.1　江の島ムスリムモデルツアーの作成協力。（2月2日）

5.2.3DBS

5.2.3.1　4月の出張ミニおもてなし講座を契機に、全社をあげて認証によらないムスリム接遇体制を着々と作りつつある。レストランブック（改訂版）には、関係店舗2店が掲載される予定。

なお、今年度の研究・活動の多くは、神奈川県大学発政策提案事業「ムスリム接遇人材育成プログラム事業」の一環としても実施された。

■今後の課題と展望■

①人づくり：ASP参加のモロッコ人学生が、SFCでの学びから「これまでで最も神を近くに感じ」、イスラーム的な平和の観念を日本人とも十分共有できることに気づいたことに象徴されるように、本活動にかかわりあるいは触れた学生は、少なからず、固定観念を脱して、「人間であること」を重視する平和裏の共生関係の構築の可能性に目覚めたのものと考えられる。今後も引き続き、SFCのイスラーム研究を世界に広める学生が育成に努めたい。

②企業づくり：ハラール認証を前提としないSFCが発信するムスリム観光客のおもてなしを実践する企業が増加し、おもてなしの事業が立ち上がるという5月の目標が、着実に広まっていると言える。（ベイシェラトン、小田急電鉄、DBSなど。）　しかし、その一方で中小企業のレベルでは、逆にハラール認証に社運をかけてしまうような事例も散見され、予断は許さない。ハラール認証によらずに、またコストをかけずに行なうムスリム観光客、あるいは在住ムスリムへの接遇方法について引き続き啓蒙活動を続けたい。

③関係づくり：本研究・活動への参加を軸にした人間同士、企業同士の新たな関係のネットワークが広がった。イスラームのイメージの悪さをどのように払拭していくかは、しかし、引き続き大きな課題である。モロッコの主要大学との交流は一定程度深まったが、テロの危険には、常に脅かされる。大きな平和の構築は、まさに喫緊の課題である。

④モデル構築：学術交流と基礎研究、ムスリムたちの日常生活の情報、彼らの隣人としての日本社会の受け止

め方に関する知見は、確かに蓄積されたが、モデルになりうるかと言えば、まだ発展途上と言わざるを得ない。学問方法論としてのイスラームの構築と表裏の関係にあるこの実践的なモデル構築である。学問方法論の側面からの一層の研鑽が今後も引き続き求められていると言えよう。